



宗教は長い間、私の日常とは少し離れた場所にあった。正確に言うと、宗教にまつわる行事や習慣に距離を感じてきた。私が暮らすガーナには、大きく分けて三つの宗教が存在する。信者が最多のキリスト教、次に多いイスラム教、アフリカ伝統宗教と呼ばれるガーナ固有の信仰である。ここでは、宗教は決して

## 宗教と向き合い交流

# JICA だより



ガーナ

中島祐一さん(28)

呉市出身



児童が熱心に聞き入る宗教の授業風景

個人の内面だけのものではなく、生活のいたる場面に根付いている。毎週日曜日の午前中は教会に行き、学

校の朝会や帰りの会、仕事のミーティングや食事の後でも祈りがささげられる。宗教を意識せずに生活することは難しい。そんな環境の中で、日本人である私はどう振る舞えばいいのか、1年たった今でも戸惑うことがある。日本では多くの人が無宗教といわれるが、仏教や神道、さらにはキリストマスなどの宗教行事を自然に受け入れている。そんな日本で育った私にとって、信仰を前提とした生活はときに重たく感じられる。日曜の午前中すべてを教会で過ごすことに、時間を失っているような気持ちになることもあった。あるとき男性から「あなたは無宗教か」と聞かれ、「ガーナにいる2年間はそうだ」と、ホストマザーに教えられた通りに答えた。敬虔なクリスチャンである彼女の思いを尊重し、信者ではないが私も教会に通っているのだから、この答えに納得していたのだが実際には相手を困らせてしまった。

また別の場面では「神を信じるか」と質問され、「神よりも自分を信じる」と答え、言い合いになったこともあった。そうした経験を重ねるうちに、私は「宗教は苦手だ」と感じるようになった。それでも、現地の人と仲良くなるための方法として、教会で共に踊り、歌い、時間を過ごすことから逃げたいとは思わない。相手の文化を100%の気持ちで受け入れられない自分も認めながら、それでも少しずつ相手に近づこうとする姿勢だけは諦めずになりたい。葛藤を抱えたままでも、後悔のない残り1年を過ごしていきたい。